

研究・調査報告書

報告書番号	担当
7 9	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol drinking and risk of hospitalization for heart failure with and without associated coronary artery disease 飲酒と冠疾患性および非冠疾患性心不全発症による入院のリスク	
執筆者	
Klatsky AL, Chartier D, Udaltsova N, Gronningen S, Brar S, Friedman GD, Lundstrom RJ.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Cardiol. 2005; 96(3): 346-51.	
キーワード	
飲酒、大量飲酒、冠疾患性心不全、非冠疾患性心不全、心筋傷害、	
<p>要 旨</p> <p><背景>大量飲酒による心筋傷害は心不全を来す可能性があるが、軽度飲酒と心不全との関連はほとんど検討されていない。</p> <p><方法> 1978-1985年に検診を受け飲酒情報を収集できた126,236人を対象に心不全による入院のリスクを検討した。</p> <p><結果>追跡期間中に2,594人が心不全のため入院し、内1,559人は心不全の原因疾患が冠動脈疾患であった。残り1,035人の入院例についても原因疾患を探求した。Cox多変量解析によると大量飲酒者(≧3飲酒単位/日)は非飲酒者に比べて心不全のリスクが高かったが、軽度から中等度の飲酒者ではリスクの増大はなかった(例: ≧6飲酒単位/日 飲酒者の相対危険度(HR): 1.7 (95%信頼区間[95%CI] 1.1 to 2.6)。非冠疾患性心不全と高度飲酒の関連は心筋症と原因不明例に限って認められた。飲酒量と冠疾患性心不全発症は負の相関があり(例: 1-2飲酒単位/日ではHR:0.6, 95%CI: 0.5-0.7)、この関連は年齢、性、人種、教育歴、喫煙、発症までの時間、基礎心疾患の有無、高血圧に関する層別解析に於いても一貫して認められた。非冠疾患性心不全の内252例の糖尿病合併例においてのみ中等度飲酒が心不全発症と負の相関があった。</p> <p><結論>大量飲酒は非冠疾患性心不全発症と関連するが、軽度飲酒と非冠疾患性心不全発症とは関連しなかった。飲酒が冠疾患性心不全発症を防御する結果となったことは飲酒が冠疾患発症を抑制することを確認したことになる。</p>	